

第31回 関市私の主張大会

「第31回関市私の主張大会」が2月3日、市役所で開催されました。これは市内の中学2年生が、学校生活や日常の体験から自分の考え方や生き方、将来の目標などについて意見発表するものです。この日は、市内の全中学校から各校代表11人が集まり「私の主張」を発表しました。最後に、同大会の生徒運営委員長から「感謝の気持ちを自分の行動で伝えていくスタートとして、あいさつを実行していくことについての提言」が発表されました。ここに、生徒たちの「私の主張」の要旨を紹介します。

照会先 学校教育課 ☎8125



▲大会の様子は各中学校へ中継されました



笑顔、生きること

富野中学校

石原

早恵

東日本大震災を経験した宮城県東松島市の生徒と交流し、笑顔が絶えず、とても明るい女の子と友達になりました。彼女は避難の途中で、お母さん、妹、友達をなくし、自分一人だけが助かりました。そのつらさや悲しみを強く乗り越え、生きようとする彼女の姿に私は打ちのめされました。私も彼女のように、一日一日を、一生懸命に生きたいと思います。

今の自分をこれからの自分へ

小金田中学校

大洞

優



生まれた時からの病気のためスポーツをあきらめていた私にとって、中学校で始めた卓球が楽しくて仕方がない。今、みんなと同じように生活し、卓球ができることは、私にとって決して当たり前のことではない。そのことに感謝し、これからも自分のできることを精一杯頑張っていきたい。

(発表順、敬称略)



家族との関わりの中で

桜ヶ丘中学校

平田

菜々子

「ガイシャ」。皆さんはこの言葉をどこかで聞いたことはありませんか。私は、弟の姿や母の生き方を通して、誤った見方で人を「ガイシャ」と言ってしまうのが許せないと思うようになってきました。これからは、周りの人のよさを大切にしながら、関わりをもっていきたいと思いました。



「マナー」の輪を広げよう

旭ヶ丘中学校

松浦 舞

歩道を歩いていた時、自転車がすぐ横でベルを鳴らして追い越して行った。高齢者の方も歩いていて危なかった。そこで「マナー」について考えてみた。
マナーはルールのように必ず守らなければならぬものではないが、ちよつとした心遣いが、過ごしやすい社会につながっていくもの。私は、「マナーの輪」が広がっていくことを願っています。



いつもありがとう

武芸川中学校

山口 舞華

バスケットボール部のキャプテンになり、不安や仲間との関わりで悩んでいた私。どんな時も見守ってくれ、私のために動いてくれていた母。
なかなか素直に、「いつもありがとう」と言えませんが今日はお礼を言います。「お母さん、いつもありがとう。これからも感謝しながら、バスケット、生活、頑張りま



言わなきゃ伝わらない

洞戸中学校

佐藤 紀香

私は、ひどく恥かしがり屋で人見知りもあり、人の前に立つことや自分の思いを伝えることがとても苦手でした。そんな私は武芸川中学校でのバスケットを通して、「言わなければ伝わらないこと」を知りました。これからも言葉できちんと自分の考えや思いを伝えて、信頼し合える人間関係を作っていきたいです。



口くち

緑ヶ丘中学校

栗木 駿

ちよつとした口げんかがきつかけで、始まった「いじめ」を見ていることしかできなかった自分。「やめよう」「ごめんね」という言葉が言えなかった当時を省みました。僕たちは「口」から、美しい言葉も罵りの言葉も発することができます。何のために、誰のために「口」をどう使うのか、選択するのは自分自身です。



職場体験で学んだこと

武儀中学校

加藤 百夏

職場体験で一番心に残ったのは、「仕事には責任がともなう。」という医師の言葉だった。人の命を預かる医師の仕事は、いい加減な気持ちでは務まるはずがない。これまで、できるだけ楽な係を選び、責任逃れをしてきた自分が情けなく感じた。今からでも遅くない。自分に与えられた仕事に責任をもって取り組むことで、将来の自分につなげていきたい。



守り続けたい

板取中学校

市川 栞

私は、四月に板取に引っ越してきた。自然豊かな板取で過ごし、大切な仲間と思い出がたくさんできた。この板取を私はふるさとだと思うようになった。今、板取は少子高齢化が進み、人口が減少している。デイサービスセンターで職場体験学習をした経験から、介護士となり、お年寄りの役に立ちたいと思うようになった。そして、大好きなふるさと板取を守っていきたい。



自分らしく、前向きでいること

上之保中学校

河合 祐依

私は人前で話すことが苦手で、これまでいろいろなことに積極的に取り組むことができなかった。自分を振り返り、「積極的に挑戦できる自分になりたい」と願い、2年生では応援リーダーや班長に立候補した。最初はうまくできなかったが、前向きな気持ちで取り組むことで自分に自信を持てるようになってきた。これからのこの気持ちを大切にしていきたい。



気持ちを伝える言葉

下有知中学校

仲 栞里

老人ホームでの職場体験で、耳の聞こえないおばあさんと出会った。おばあさんは一生懸命何かを伝えようとした。自分はこの言葉で大切に生活しているだろうか。学級委員として自分の思いを伝える自分。やはり思いを伝える一番の手段は言葉である。自分の思いをできる限り言葉にして、学級の仲間に伝えていくよう努力していきたい。